被害発生の確率を下げよう～家具の固定方法～

うごくものの固定

①耐震粘着マット（床固定）

ダイニングテーブル・ベッド・テレビ台など

・底部に耐震粘着マットを貼付ける

・重量やマットの種類で、必要枚数が異なるので注意する

②キャスターロック+チェーン/ベルト

コピー機など

・転倒・移動軽減構造（キャスターロック、キャスターセミロック、アジャスター固定等）を使用し、チェーンやベルトで、背面側上部・下部などを壁に固定する

・しっかり固定するには機器の取付箇所、機器全体上下接合部の強度が必要。

・最適な対応が重要となり、対応方法がメーカーや機種ごとに変わる場合があるため、販売店等に相談を。

たおれるものの固定

③L字金具（壁固定）

タンス・食器棚・冷蔵庫・サーバーラックなど

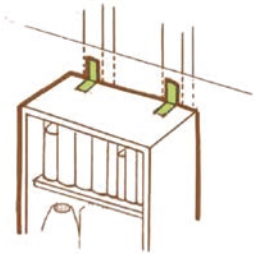
・L字金具を使い、壁に固定する

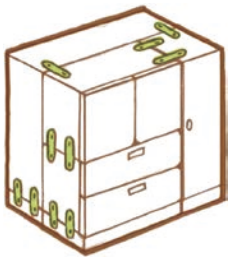
・固定位置は柱や間柱・胴縁など丈夫な部分を選ぶ

④平金具（連結）

キャビネット・タンス・ガラス戸棚・書庫など

・平金具を使い、隣や背中合わせの家具と連結する





とぶものの固定

⑤ラッチ

食器棚・冷蔵庫・キャビネット類・書庫など

・開き戸・引出しにラッチを付け、収納物の飛出しを防ぐ

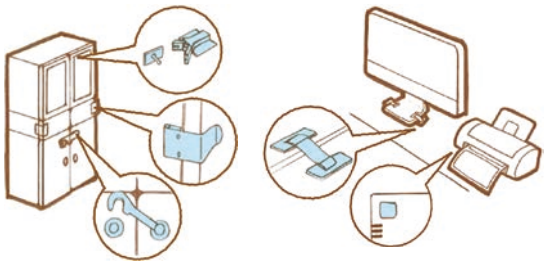
・飛び出し防止ゴムや滑り防止布を敷くのも効果的

⑥ストラップ式/耐震粘着マット

PC類・レンジ・テレビなど

・電子機器類はストラップ式で固定する

・耐震粘着マットは強度を確認して選ぶ



おちるものの固定　われるものの固定

⑦ヒートン+チェーン（天井固定）

照明・額など

・強い力がかかるため、固定点の強度が重要

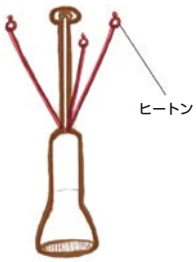
・ヒートンを使用し、チェーンや紐で天井の丈夫な部分と固定する

⑧飛散防止フィルム

ガラス戸棚・食器棚・ガラス窓など

・まず、ガラス戸棚・食器類など家具自体を固定する

・ガラス部分全体に飛散防止フィルムを貼る



出典：The Great Japan Shake Outホームページ

近年の地震では、家具の転倒や落下による負傷が全体の３割～５割を占めています。「怪我をしてしまう ・避難路が塞がれてしまう」と、助けが来るまで身動きが取れなくなり、火災が発生した場合に逃げ遅れる原因となります。また、夜に地震が起き、メガネや懐中電灯などが家具の下敷きになると、暗闇の中で行動できない事態が考えられますので、必ず家具の固定を行い、避難路を塞がないよう家具を配置しましょう。

また、電気や水道が止まり、道路も損傷するなど、ライフラインが寸断される恐れがあります。地震に限らず、災害時に必要な食料・飲料水、懐中電灯、ラジオといった備蓄品を用意しておき自宅で過ごせる用意と万が一の避難に備えた用意をしておきましょう。

詳しくは、総務課 防災係にお問い合わせください。

10月4日は 中標津町 防災の日

※この図は中標津町防災ハンドブックP13に掲載しています

上の図のように、本町は標津断層帯や周辺海溝で発生する地震の影響を受ける地域です。平成６年10月４日には、北海道東方沖を震源とする最大震度６の地震により大きな被害を受けました。このことを教訓として、本町では10月４日を防災の日と位置づけています。

災害はいつ発生するか予測できませんが、災害を知り、あらかじめ備えておくことで被害を軽減することができます。下記の考え方を中心に対策を行いましょう。

危険を回避しよう

あらかじめ、避難路を塞ぐ物を撤去する、家の耐震改修※を行うなど極力危険を回避する。

被害発生の確率を下げよう

家具を固定するなどして、被害が発生しないよう工夫する。被害が発生し、怪我をしてしまうとその後の対応が取れなくなります。

被害を前提とした対策をとろう

地震保険に加入するなど、被害を見込んだ対策を考えよう。

被害に対応しよう

地震が発生した時に自分の身を守る行動を取る、あらかじめ非常食を用意しておくなど、被害に対応できるようにする。

※昭和56年５月31日以前に建てられた住宅は耐震性能が低い恐れがあります。耐震診断を受け、耐震改修が必要な場合は「既存住宅耐震改修費補助制度」の対象となることがあります（補助上限30万円）。